

『今改めて思う21世紀を創る報徳思想』

衆議院議員 福田昭夫

私は、旧今市市長の時から『報徳思想が21世紀を創る。』と言い続けてきた。今改めてそう強く感じている。

尊徳翁の代表的な訓えに、至誠・勤労・分度・推譲がある。真心を中心として一生懸命働き、自分の収入の3分の2程度で生活し、3分の1を積み立て、自分や子や孫たちと他人や社会の為に譲ってゆくという生き方である。正に、素晴らしい人生訓であり、私はこれが実践できれば、精神的にも経済的にも豊かになれて、幸せな人生が送れると確信している。

この訓えは、個々人はもちろん企業にも自治体や国家の経営にも活かせる。報徳道を活かして経営している企業はたくさんある。世界一の自動車会社トヨタをつくった豊田佐吉・喜一郎親子は、日蓮宗の信者であると同時に報徳道の熱心な実践者であったと言われている。

今の安倍内閣には、至誠・真心が見えない。『ウソつき内閣』と言われても仕方がない。実際、安倍総理は、国民を何度も騙してきた。

一つの大きなウソは、経済最優先アベノミクスでデフレを脱却し、経済を成長させ、税収を増やし、国と地方の基礎的財政収支を二〇二〇年度までに黒字化させる約束だ。『経済成長による税収増』はアベノミクスの柱だが、昨年度の税収は、当初予算に比べて二・一兆円も減収となり、目標年次までの黒字化はとても無理だ。

同時に、日銀の黒田総裁が進める金融緩和の目標である物価安定目標二%も六回も断念して、達成時期を二〇一九年へと延期した。四百六十兆円という莫大なお金を出しても、その効果は限定的で、金融機関等の経営を悪化させ、国家財政をも危うくしている。一日も早く金融緩和を縮小する出口戦略が求められている。

二つ目の大きなウソは、国民を騙して『いつでも戦争できる国づくり』を進めてきた事だ。その為に、特定秘密保護法、安保法いわゆる戦争法、テロ等準備罪法いわゆる共謀罪法を次々と強行採決で成立させてきた。

集团的自衛権の行使容認を閣議決定して、安保法を成立させた時点で、『いつでも戦争できる国』ができあがった。総理自身はその事を「集团的自衛権の行使を容認して安保法をつくったら、米国から何も言ってこなくなったんだよ。憲法改正する必要がなくなっちゃったんだよ。」と告白している。正に、麻生副総理が「憲法改正はナチスのように国民が気がつかないようにやればいいんだよ。」と言っていた通りになってしまった。にもかかわらず、今度は「憲法九条に自衛隊を明記したい。」と言いつつ出した。

報徳思想は多信教。尊徳翁は自分の訓えは神儒仏正味一粒丸と言っている。神は神道で『開国の道』、儒は儒教で『治国の道』、仏は仏教で『治心の道』で、これらをぐるぐる丸めて斑文様のないような丸薬にしたものだ。その匙加減は、神一匙、儒仏半匙ずつだそう。翁の訓えが、個々人にも企業にも自治体や国家にも活かせる所以である。

尊徳翁を評価する人は古今東西たくさんいる。わが国の代表は内村鑑三である。彼の『代表的日本人』はあまりにも有名だが、日本を代表する五人のうちの一人、聖農として翁を紹介している。海外の代表は、戦争に敗れた時のGHQ政府の新聞課長インボーン少佐である。彼は、「戦後の復興は尊徳翁に学べ。翁は近世日本が生んだ最初の民主主義者であり、翁の訓えは真理だから時代を超えて通用する。」と言いつつ切っている。

二〇〇四年、国際二宮尊徳思想学会が誕生した。初代会長となった北京大学の劉金才教授の基調講演は圧巻であった。「今人類が解決すべき大きな課題が三つある。一つは人と人との対立、二つは国（文化）と国（文化）との対立、三つは人間と自然の対立だ。世界中を探してみたが、この三つの課題を解決できる哲学思想は、二宮尊徳思想しかない。だから、国際二宮尊徳思想学会を設立して、この三つの対立の解決の糸口を見出していきたい。」と述べた。私は背筋がぞくぞくとするような感動を覚えた事を今も忘れない。

今、世界を見渡すと、我が国をはじめ多くの国々が価値観が多様化する中で、ゆきすぎた自己中心主義、自国中心主義によって、混乱しているように思える。報徳思想は多信教なので一円融合の心で、他者（異教徒）の存在を認め、共存共栄を図り、自然との調和を大切に自然の恵みに感謝するというものだ。今こそわが国は報徳思想に学び、脱原発・脱炭素社会を推し進め、国民ひとり一人の幸せと世界の平和と繁栄に貢献すべき時ではないのか。つくづくそう思う。